

# 私たちのCSVコミットメント





私たちは、社会とともに持続的に成長していくため、「健康」「地域社会への貢献」「環境」及び酒類を扱う企業グループの前提として「酒類メーカーとしての責任」に重点的に取り組んでいきます。これらCSV重点課題について、「持続可能な開発目標」(SDGs<sup>※</sup>)等を参照しながら、事業を通じて中長期的に目指す姿を明らかにする17のコミットメントを策定しました。また、コミットメントの達成に向けた具体的なアプローチ及び成果指標を定めました。

私たちは、グループ丸でこのコミットメントに取り組むことにより、お客様の幸せな未来に貢献することを目指します。

※SDGs(Sustainable Development Goals)：世界の持続可能な発展を実現するために、2016年から2030年までの15年間で国際社会が取り組むべき課題を定めたもの。2015年9月に国連サミットで採択された。



CSV重点課題	項目	SDGs		ストーリー	コミットメント	アプローチ	成果指標
		目標	ターゲット				
酒類メーカーとしての責任	適正飲酒啓発と豊かなアルコール文化の醸成	3 すべての人に健康と福祉を	薬物乱用やアルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する。(ターゲット3.5)  2020年までに、世界の道路交通事故による死亡者を半減させる。(ターゲット3.6)	▶キリンググループは、責任ある酒類メーカーとして、アルコールの有害な摂取が人々の健康に悪影響をもたらす、社会問題につながり得ることを懸念しています。これらの問題に対処するため、私たちは、適正飲酒の啓発に努めることにより、豊かな飲酒文化を醸成していきます。	0.1 ▶地域の課題に応じて、アルコールの有害な摂取の根絶に向けて取り組みます。 ▶酒類のカテゴリーごとに、ノンアルコール・低アルコール商品の開発や認知向上に努めます。	▶生活習慣病の原因となる大量飲酒、未成年や妊産婦の飲酒、飲酒運転、飲酒による暴力行為などの課題に対応した啓発プログラムをグループ横断で整備し、各事業において、地域ごとの課題に応じたプログラムを選択して実行します。以上においては、行政や医療機関、NGOなどと連携し、信頼性と実効性を高めます。 ▶研究開発力を活かし、ノンアルコール・低アルコール商品の開発を強化し、お客様の選択の幅を広げます。	▶2018年までに各地域の課題に応じた啓発プログラムを開発・実施 ▶2019年以降、啓発プログラムの実施回数や回数など、普及度に関する目標を設定 ▶ノンアルコール・低アルコール商品のアイテム数を拡充
			健康	健康・未病領域におけるセルフケア支援	3 すべての人に健康と福祉を  9 産業と技術革新の基盤をつくろう	2030年までに非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。(ターゲット3.4)  2030年までにイノベーションを促進することや100万人当たりの研究開発従事者数を大幅に増加させ、また官民研究開発の支出を拡大させるなど、開発途上国をはじめとするすべての国々の産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力を向上させる。(ターゲット9.5)	▶現在、生活習慣病の予防は世界の各地域における喫緊の社会的課題です。キリンググループは、お客様への日々の飲料・食品や情報の提供を通じて、心身の健康のセルフケアを支援することを目指します。  ▶生涯を通じてより健康かつ幸福に生きることが、現代社会、特に、課題先進国である日本に生きる私たちにとっての大きなテーマです。飲料と医薬・バイオという事業基盤を持ち、お客様のライフステージに幅広く貢献するキリンググループだからこそ、人々が心身ともに健康に生きる力を最大限に発揮すること、すなわち、クオリティ・オブ・ライフの向上に様々な面から貢献します。
治療領域の進化	治療領域の進化	3 すべての人に健康と福祉を	すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保険サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カレッジ(UHC)を達成する。(ターゲット3.8)	▶科学の発展に伴い、次々と新しい医療技術や薬が開発されている一方で、未だに満足いく治療法のない病気が存在します。満たされない医療ニーズは、ますます多様化・高度専門化し、それに適する薬の開発は技術的にもコスト的にもハードルが高まっています。しかし、このような環境の中でも、最先端のバイオテクノロジーを駆使し、さらなるイノベーションの創出を継続することで、革新的医薬品の提供や適応拡大・剤形追加によって、新しい価値を生み出し、世界の人々の健康と豊かさに貢献していきます。	1.3 ▶画期的な新薬を継続的に創出し、開発・販売をグローバルに展開していきます。(協和発酵キリン)  1.4 ▶安価で高品質なバイオシミラー及びオーソライズドジェネリックを提供し、バイオ医薬品のさらなる普及と世界的課題である医療費の抑制に貢献します。(協和発酵キリン)	▶バイオ医薬品の提供を通して培った強みである研究開発力と製造技術力を核として、4大創薬モダリティと位置付ける抗体医薬、低分子医薬、核酸医薬、再生医療の各技術領域で、オープンイノベーションも効果的に活用しながら、創業基盤の強化を図るとともに、継続的な開発品の創出を目指します。 ▶グローバル戦略品と位置付ける、X染色体遺伝性低リン血症性くる病(XLH)治療のためのKR23、成人T細胞白血病リンパ腫・皮膚T細胞リンパ腫治療のためのKW-0761、パーキンソン病治療のためのKW-6002の、海外における承認取得、販売開始を達成し、グローバルスペシャリティファーマとなることを目指します。	▶X染色体遺伝性低リン血症性くる病(XLH)治療のためのKR23、成人T細胞白血病リンパ腫・皮膚T細胞リンパ腫治療のためのKW-0761、パーキンソン病治療のためのKW-6002の、海外における承認取得、販売開始を達成し、グローバルスペシャリティファーマとなることを目指します。
			健康経営の実現	3 すべての人に健康と福祉を	2030年までに非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。(ターゲット3.4)	▶近年の雇用労働環境の変化により、従業員の心と体の健康問題は深刻化しています。「食と健康」の新たなよるこびを上げていく企業として、お客様に新しい価値をお届けするイノベーションを生み出せるよう、従業員が生き生きと働くことのできる環境を醸成し、組織能力強化につなげていきます。	1.5 ▶お客様へ健康をお届けする企業として、従業員が積極的に健康づくりを行う環境・機会をつくっていきます。 ▶メンタルヘルスや生活習慣病予防に取り組むとともに、酒類メーカーとして従業員の適正飲酒が社会の手本となるよう取り組みます。
食の安全・安心の確保	食の安全・安心の確保	2 飢餓をゼロに	2030年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靱(レジリエント)な農業を実践する。(ターゲット2.4)	▶フードテロや食品偽装、食中毒(ノロウイルス)など、食の安全が脅かされる事態が発生し、お客様の商品品質に対する安全・安心への関心も向上しています。キリンググループ品質方針である「お客様本位・品質本位」に基づき、安全性の確保とお客様の満足は何よりも優先しています。お客様の声に真摯に耳をかけたむけ、お客様とのコミュニケーションを大切に、信頼につながる情報を誠実にお伝えしていきます。	1.6 ▶国際標準による製造プロセスの衛生管理*体制を確立し、安全性の向上を図ります。また、品質に関するコミュニケーションを充実させ、お客様の安心感と信頼感の向上に繋げていきます。  ※HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point)	▶製造プロセスのHACCPによる衛生管理体制をグローバルに推進していきます。 ▶原料の安全性確保のための取組み(残留農薬、放射性物質等)をお客様にお伝えしていきます。 ▶お客様のニーズに応じた商品・原料情報をWEB、店頭、工場見学等多様な機会を活用し、お伝えしていきます。	▶2017年に衛生管理体制に関する成果指標を策定 ▶キリンの商品やその原料に対するお客様の理解促進、及び品質に対するお客様の安心感とキリンブランドへの信頼度向上

CSV重点課題	項目	SDGs		ストーリー	コミットメント	アプローチ	成果指標
		目標	ターゲット				
地域社会への貢献	サプライチェーンの持続可能性強化		2030年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場及び高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増させる。 (ターゲット2.3)	▶ビールの魂とも言うべきホップはビールに様々な個性を与えます。しかし、日本産ホップは生産者の高齢化等にもない年々収穫が減少しています。国内のホップ農家と長期的な関係を築き、育種開発などの品質向上に取り組みと共に、生産地域の皆様と一緒に地域活性化に取り組めます。それにより、良質な国産のホップの安定調達を実現し、収穫したばかりのホップを使った「一番搾りとれたて生ビール」や、摘みたての日本産ホップ「IBUKI」を手を加えずそのまま使ったクラフトビールなど、日本産ホップでなければできない特徴的で高品質なビールづくりを継続・拡大していくことができます。同時に個性的な日本産ホップを世界に発信し、ホップ農家の継続性を高めます。	▶日本産ホップの品質向上と安定調達に取り組み、日本産ホップならではの個性あるビールづくりを行うとともに、生産地域の活性化に寄与します。(キリンビール)	▶長期的な視点にたち、日本産ホップの育種開発やホップ生産地域の魅力を高める取り組みを支援し、新規就農者を増やすなど、ホップ農家の高齢化や担い手不足を解消し、安定的な収穫量の維持と品質向上を実現します。 ▶日本産ホップの特徴を生かした個性的なビールを開発して高い評価をいただくことで、日本産ホップの価値を高め、世界のクラフトビールづくりにおいても活用される姿を目指します。	▶日本産ホップの収穫数量減少の歯止め ▶日本産ホップを使った個性的な商品の開発 ▶日本産ホップが評価され、キリングループに限らず世界で日本産ホップが使用される ▶その他、地域とキリンとの協働について、取り組み実績を併せて開示
			2030年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靱(レジリエント)な農業を実践する。 (ターゲット2.4)	▶日本が輸入している紅茶葉の6割がスリランカ産ですが、その約3分の1が「午後の紅茶」の原料に使われています。スリランカの主要産業である紅茶葉の主要輸入企業として、責任ある調達に取り組み、収量の上がる効率的で環境にやさしい農業の実現と、農園で従事する人々の安全性や生活の向上につながるレインフォレスト・アライアンス認証の取得を支援していきます。日本のお客様に最も支持いただいている「午後の紅茶」を、この先もずっと安心して飲み頂けるよう、生産地域の持続可能性を高めながら良質な紅茶葉を安定的に使用できるよう、スリランカの紅茶農園を長期的に支援していきます。	▶レインフォレスト・アライアンス認証の取得支援をはじめ、スリランカの紅茶農園を長期的に支援し、認証茶葉の使用を拡大していきます。(キリンビバレッジ)	▶原料となる紅茶葉の調達持続可能性を担保するために、レインフォレスト・アライアンス認証の取得支援を通じて、紅茶葉生産者を支援します。 ▶長期的にレインフォレスト・アライアンス認証茶葉の使用を拡大していきます。	▶レインフォレスト・アライアンス認証取得支援農園数の拡大 ▶レインフォレスト・アライアンス認証茶葉の使用拡大
			2030年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場及び高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増させる。 (ターゲット2.3)	▶世界で日本ワインへの注目が集まっています。わたしたちは、「シャトー・メルシャン」を通じ、日本ワインの品質をより広く伝え、より多くのお客様にお届けすることで、日本ワインの世界的評価を高めています。そうすることで、原料となるブドウの品質向上とブドウ畑の拡大に長期的な視点で取り組むことができます。適地適品種を目指す中で、遊休農地の活用にもつながる例や、豊かな生態系を育む例があるなど、日本の農業と地域の活性化に貢献することができます。	▶世界に認められる日本ワインの発展を牽引し、ワインづくり、ブドウづくりを支える産地・地域の活性化に貢献します。(メルシャン)	▶「シャトー・メルシャン」を日本ワインを代表するブランドとして育てていきます。 ▶長期的な視点で契約農家を支援し、関係を深めていくとともに、自社管理畑のブドウの品質を高め、高品質な日本ワイン用ブドウを安定的に確保していきます。 ▶農地拡大を通じて、日本ワイン用ブドウの収穫量を長期的に増やしていきます。 ▶適地適品種に基づく産地形成を目指し、契約農家の方々のモチベーション向上に貢献します。 ▶地域の活性化につながるイベントに参画します。 ▶産学連携事業により業界を担う次世代の人材育成を通じて、地域社会に貢献します。	▶「シャトー・メルシャン」の評価向上・販売数量の拡大 ▶日本ワイン用ブドウ畑の耕作面積の拡大 ▶契約栽培 地域での取り組みについて、実績を併せて開示
			2030年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場及び高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増させる。 (ターゲット2.3)	▶私たちは、ライオン社に供給を行う400ものオーストラリア全土の酪農家の皆様と、長期的で持続可能な関係を築けるよう努めています。180の酪農家とは直接、218の酪農家とは酪農家ミルク協同組合(Dairy Farmers Milk Cooperative)を通じて契約しています。わたしたちは、契約する酪農家が現在、そして将来に渡って、より持続可能となるよう支援します。持続可能な酪農家こそが、持続可能な酪農ビジネス、高品質な商品、そして幸せな酪農家と乳牛、これら全ての土台であると信じています。	▶酪農家との持続可能なパートナーシップを発展させることで、酪農家とメーカー双方の持続的な収益と、サプライチェーンを通じた価値創造を実現します。(ライオン)	▶地域の状況を反映し、また安全な価格条件と幅広い選択肢を備えた、競争力ある契約を提供します。 ▶農場の効率と持続可能性を高めるための資金支援や、好事例に基づくアドバイスや支援といった、幅広いベネフィットを契約先の酪農家に提供します。 ▶酪農の価値と利益を高めていくことへのコミットメントを、明確にお伝えしていきます。 ▶より多くのオーストラリアのお客様が高品質で体によい乳製品を毎日お楽しみ頂けるよう、酪農家の皆様と一緒に栄養上のベネフィットに対する理解を広めていきます。	▶オーストラリア全土の契約酪農家との長期パートナーシップ ▶契約酪農家との確固たるエンゲージメントの維持・構築 ▶全契約酪農家を対象とした支援プログラム(Lion Dairy Pride Program)の展開と、オンライン自己評価ツールの実施完了
			2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。 (ターゲット8.9)	▶都市部への一極集中や少子高齢化などにより、地方が衰退し活力が失われつつあり、加えて、自然災害も頻発に起こり地域社会での健全な生活が危うくなっています。そんな中でわれわれは、生活の基盤となる地域社会が活性化される取り組みを応援していきます。事業を通じて各地域の課題解決を地域の皆様と一緒に考え、行動していくことで、お客様に最も近い会社(ブランド)となっていくことを目指します。	▶各地の事業所が中心になって地域のお客様と一緒に、地域が元気になる商品やサービスを展開します。	▶地域の人々が元気になる商品・サービスを、地域の人々と一緒になってつくと共に、地域の産品のブランド化と販路拡大や、地域活性化につながるイベントに参画します。 ▶地域の人々とのネットワークづくりを進め、連携を高めて行くと共に、将来を担う地域のリーダーの育成を支援します。	▶地域の人々と一緒につくった商品・サービスの拡大 ▶地域活性化につながるプロジェクト(イベント参画、地域産品のブランド化を含む)の展開 ▶将来を担う地域のリーダー育成支援プログラムの展開
環境	環境活動の事業戦略への反映		すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応の能力を強化する。 (ターゲット13.1)	▶1997年に開かれたCOP3以降、地球温暖化防止に関する話題が注目を集め、各企業もGHG削減に真剣に取り組むようになりました。その後、2016年にCOP21で締結されたパリ協定では、これまで以上のGHG削減努力が必要であることが確認されました。キリングループでは生産活動による地球温暖化への影響を低減し、地球温暖化防止に貢献していきます。	▶再生可能エネルギーの導入をはじめとした更なる温室効果ガス(GHG)排出量削減の取り組みを進めます。	▶再生可能エネルギーの導入を推進します。 ▶省エネルギーを推進します。	▶SBTによるGHG削減中期目標の達成に向けた取り組みの実施 ▶再生可能エネルギー比率の向上(2017年に定量目標を設定)
			2030年までに、全セクターにおいて水利用の効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取及び供給を確保し水不足に対処するとともに、水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる。 (ターゲット6.4)	▶水資源に関する課題は国や地域、年によって大きく異なります。しかし、水資源への取組みは、飲み物をお客様にお届けする私達にとって、とても重要な課題です。キリングループでは節水への取り組みを継続的に行うと共に、それぞれの地域の水資源の課題を把握し、適切な水利用を進めています。	▶3.2 生産活動における水使用量を削減するとともに、水源地の保全活動を継続的に進めます。	▶工場における節水活動を推進します。 ▶製造拠点における水リスクを把握します。 ▶水源地の保全活動を継続します。	▶水使用量の削減(2030年で2015年比30%削減)(協和発酵キリン) ▶「水源の森活動」ほか水源地保全継続
			2030年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う。 (ターゲット15.4)	▶世界では、環境にやさしい農業とともに、持続可能な農業が求められています。一方日本では、農業従事者の高齢化に伴う耕作放棄地の増加により、里地里山と呼べる場所が失われつつあり、生態系への影響も懸念されています。キリングループでは国の壁を越え、原料生産地の支援や生産者との協働を通じて生産地の自然環境を守り、生物資源の保護に努めます。また、地域の貴重な森林資源の保全にも貢献します。	▶3.3 原料生産地と事業地域における自然環境を守り、生態系を保全します。	▶スリランカの紅茶生産者のレインフォレスト・アライアンス認証取得を支援します。(キリンビバレッジ) ▶梔子(マリコ)ヴィンヤードにおける希少種・在来種の再生を行います。(メルシャン) ▶遠野のホップ畑とその周辺環境を整備して生態系を豊かにします。(キリンビール)	▶スリランカの農園の持続性向上 ▶日本の農地における生物多様性の確保
			2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。 (ターゲット12.2)  2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。 (ターゲット12.4)	▶容器包装に関する課題は時代背景や社会情勢によって徐々に変化して来ましたが、容器包装の散乱の問題に始まり、リサイクル性能や軽量化の要求、現在では原材料そのものの持続性へも注目が集まっています。キリングループでは容器包装のリサイクル性を高めるための取り組みを社会全体に働きかけていくと共に、容器包装材料の持続性の向上に取り組めます。	▶3.4 容器包装の軽量化を継続するとともに、材料の非再生資源依存を低減し、持続性を高めます。	▶容器への再生素材及び持続可能な素材の利用を拡大します。(再生PET・植物性樹脂・FSC認証紙など) ▶製品や容器の開発の早期段階での容器材料選定と同様に容器のライフサイクル評価(LCA)を導入します。(ライオン)	▶ボトルtoボトルの維持・拡大 ▶植物性樹脂の使用検討・推進 ▶FSC認証紙使用紙容器(1次/2次容器)の使用維持・拡大 ▶2030年までに容器材料のリサイクル性を90%以上に向上(ライオン) ▶2030年までに容器包装資材のリサイクル材料比率を50%以上に向上(ライオン)